

対人援助学&心理学の縦横無尽 1 1



サトウタツヤ@立命館大学文学部心理学専攻

福島県浪江町 訪問記

二〇一一年三月に発生した東日本大震災。その直後の大津波は福島県双葉郡大熊町・双葉町に立地する福島第一原子力発電所を襲い、大量の放射性物質が環境中に放出されました。周辺住民を含む多くの人々が強制避難に追い込まれたり、自主避難を選択せざるをえなかったことは周知の通りです。

放射能は主として爆発のあった3月12日～15日にかけて大気中に放出されたのち、風に乗って北西の方角へと流れ、やがて雨によって地上に降下しました。放射能が風によって広まるといふことは、風が吹かない方角には広まらないということの意味しますから、予測は可能なはずでした。

さて私は、二〇一三年六月、関係各位のご厚意をえて福島県浪江町を訪問することができました。現在、浪江町は、放射線量の高さによって、「帰還困難区域」「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」の3つの区域に区分けされています。

「帰還困難区域」については少なくとも5年以上は帰還して居住することが困難だと

考えられています。この区域にある浪江高校津島校は、原発事故後数日間だけ避難所になっていましたが、すぐに閉鎖され、そのままです(写真上)。





JR 浪江駅は「居住制限区域」にあります。その近くの民家は崩れおちたままです（写真左）。あるいは、この2年間の間に崩れたのかもしれませんが、いずれにせよ、片付けもされていません。

「避難指示解除準備区域」は引き続き避難指示が継続されるものの、住民が帰還できるよう環境整備を目指すとされた区域です。つ

ぎの写真は津波で水田に運ばれた漁船です。2年たってもこのままです。よもやこの2枚の写真がもともと水田だったとは誰も思わないでしょう。

